

第 48 号

令和 5 年 2 月 28 日 (火)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会

(教育指導課)

TEL：0852-22-6709

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

令和 4 年度 島根県学力調査結果をお届けしました

教育庁教育指導課

教育推進スタッフ調整監 小室淑子

公立小・中学校・義務教育学校及び特別支援学校小学部・中学部を対象として昨年 12 月に実施した島根県学力調査の結果を、先日、各学校に返却しました。市町村教育委員会、各学校の皆様、ご協力ありがとうございました。この学力調査は、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握するとともに、全国学力・学習状況調査や過去の県学力調査等で明らかになった課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資するために実施しています。

設問数や難易度は毎年異なりますので、平均正答率について過去の年度と単純に比較することはできません。また、県平均正答率との差だけに着目して数値の上下にこだわるものでもありません。これまで、学校では調査結果から児童生徒の学力や学習状況を把握し、一人一人の状況に応じた指導・支援を行うとともに、学習指導の改善に生かすことを大切にいただいています。

この第 48 号では県全体の分析結果を載せていますが、課題としては大きく 3 つの内容を挙げています。

まず、実施した教科において共通して見えてきた課題は、問題解決における思考の過程や判断の結果などを、理由や根拠を明らかにして自分の言葉で説明することです。学習において対話的な場面では、他者等との交流を通して、お互いの気付きを共有したり感じ取ったことを共感したりして学びを深めていきます。その土台として、普段の授業や生活での対話がどうであるか、お互いが使っている言葉の意味は同じであるのか、そもそも考えや意見を言い表すための言葉の引き出しをもっているのか、対話の目的は達成されているのか、などについては振り返りたいところです。

次に、各学年で身に付ける力の確実な習得です。児童生徒が年度内に身に付けるべき力を習得できるようにするには、その該当学年の学習を行うだけでは難しい、とはよく言われていることです。一学年前やもっと前のところで児童生徒が困っているのだとしたら、そこを一緒に乗り越えていきたいものです。

最後に、「普段、1 日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」という意識調査の結果です。中学 2 年生で 75.6% の生徒が 1 時間以上、小学校 5 年生から中学校 2 年生までの児童生徒の 10 人に 1 人は 1 日 4 時間以上と回答しました。学習面もさることながら健康面も気になる結果です。児童生徒の 1 日の時間の使い方やメディアとの関わり方、家庭学習についての指導や取組は、各学校や中学校区、市町村で行われていますが、今後は、児童生徒が触れている様々な端末が、楽しい時間を過ごすのに便利であるのと同じくらい、学びを深めるために役立つものであることを、併せて考えていくことが必要ではないかと捉えています。

結果を受け取ったあと大切なのは、各校や個々の児童生徒の実態を把握することと、その課題に向けての対策に、まず一歩踏み出すことです。県全体の結果から自校の分析・改善への道筋を見つけていただき、授業改善や個々の児童生徒に向き合うための手がかりとして、調査結果やフォローアップ教材、過去の県学力調査結果概要 (EIOS：しまねの教育情報 Web に掲載) を活用していただきたいと考えます。公務多端な学校現場ではありますが、本来力を注ぐべき学習指導及び生徒指導の充実につなげるための、各校における今日からの一歩が踏み出せるよう、県教育委員会としても支援をまいります。

令和4年度島根県学力調査結果の活用について

～ 自分の考えを言葉にする力の育成・家庭での時間の使い方の見直し ～

令和4年12月に実施した「島根県学力調査」の結果概要をしまねの教育情報Web EIOSに掲載しました。(学校版はポータルサイトに掲載)各教科の指導のポイントやしまねの学力育成推進プランの3つの柱(授業の質の充実・家庭学習の充実・地域に関わる学習の充実)に関わる取組をまとめていますので、来年度の学力育成の取組にご活用いただきますようお願いいたします。

令和4年度
島根県学力調査
結果概要

令和5年2月15日(水)
島根県教育委員会

〈調査結果から各学校における取組の重点としてお願いしたいこと〉

- ☆ 今日の授業から、児童生徒が自らの考えを整理し、自分の言葉で語尾までしっかりと話すこと(説明すること)や書くことができるよう、教員が意識して取り組み、繰り返し粘り強く指導すること
- ☆ 次年度の学習への接続として、フォローアップ教材等を活用し、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるよう指導すること
- ☆ 普段の家庭生活における家庭学習時間について見直す機会を設けるとともに、SNSやインターネット等の利用の仕方について、その利便性を踏まえながら、家庭とも連携し、共通理解を図ること

学力調査の結果概要

- (1)国語 ①文学的文章や説明的文章の内容を捉える力は概ね定着している
②指定された文字数や記述すべき内容など、複数の条件をふまえて自分の意見を明確にして書くことに課題(小学校・中学校)
③作文問題の無答率が高く、まとまった分量の文章を書くことに課題(中学校)

【指導のポイント】

- 複数の情報を整理・分析し、自分の考えを自分の言葉で表現する学習活動を設定しましょう。
- 指定された条件でまとまった分量の意見文を書く学習活動を繰り返し設定しましょう。
- 漢字や語彙などの既習の知識は、繰り返し活用して定着を図りましょう。



(2)算数・数学

- ①「図形」領域に改善の傾向が見られる
- ②思考の過程や判断の結果などを、式や言葉を用いて記述することに課題(小学校)
- ③日常や社会の事象について、変化や対応の特徴を基に説明することに課題(中学校)

【指導のポイント】

- 日常の事象から問題を見だし解決する活動の充実を図りましょう。
- 数学的に表現し伝え合う活動の充実を図りましょう。
- 小学校算数科からの系統性を意識した文字式の計算の指導を行いましょう。(中学校)

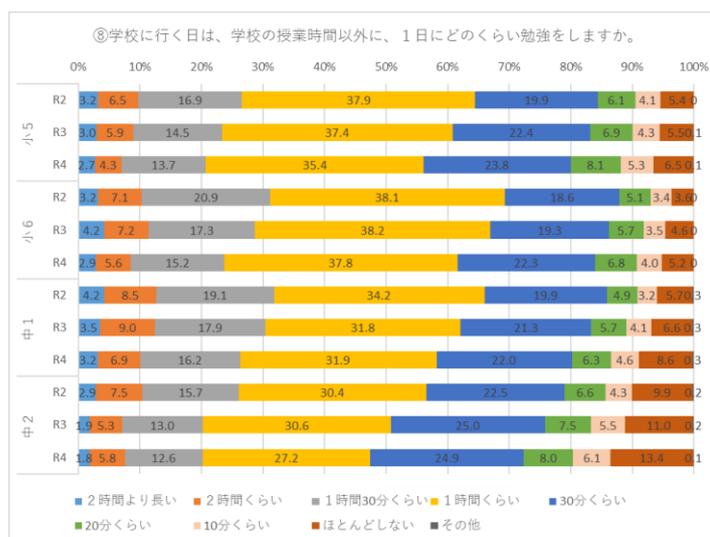
- (3)英語 ①まとまりのある英文を聞いて、話の概要を捉える力は概ね定着している
 ②テーマや対話の流れに沿うなど、場面や状況に応じて英文を書く力に課題
 ③読んだ内容を基に思考・判断して英文を書くなど、領域を統合して活用する力に課題

【指導のポイント】

- 既習の語彙や表現を活用し、思考・判断・表現する言語活動を通して指導しましょう。
- 複数の領域を統合した領域統合型の言語活動を設けましょう。
- 小学校での学びを知り、小学校で学んだ表現を中学校の言語活動において繰り返し活用させましょう。(中学校)

生活・学習に関する意識調査の結果概要生活・学習に関する意識調査の結果概要

- (1)話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答する児童生徒が、学年が進むにつれて増えている
- (2)平日に1時間以上家庭学習を行っていると答えた児童生徒の割合が減少している（平日1時間以上学校以外で勉強している割合が最も小さいのは、中学2年生で47.4%である）
- (3)総合的な学習や地域について考えることに前向きな回答の児童生徒が、学年が進むにつれて増加している
- (4)平日にゲームをする児童生徒の割合が40%以上であることに加え、SNSや動画視聴等の使用時間が増加している（1時間以上使用している割合が最も大きいのは中学2年生で75.6%である）



【指導のポイント】

- 引き続き、日々の授業において、「話し合う目的や話合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などを工夫していきましょう。
- 家庭生活を計画的に過ごすことができるようにマネジメントする力が重要となります。各学校で取り組んでいる家庭学習計画表等について、実施後の振り返りを次の計画に生かしていくところまで指導しましょう。

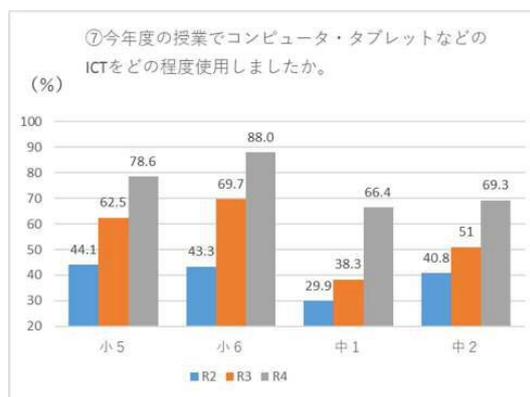
今後も引き続き、県教育委員会の取組として、市町村教育委員会と連携・協力して実施している「しまねの学力育成推進プラン」を本調査の分析に基づきながら進めていきます。

そして、しまねの学力育成推進プランの3つの柱の中の「授業の質の充実」「家庭学習の充実」「地域に関する学習の充実」のために、各学校で活用していただけるよう、授業の改善ポイント動画の作成・配信、家庭学習を見通した授業づくりの情報提供、「総合的な学習（探究）の時間」研修等を行ってまいります。ぜひご活用ください。

ICT 活用の推進を！

小中学校等では児童生徒に1人1台端末が整備され、高等学校では1年生から順次端末を購入しています。

小中学校等で実施した島根県学力調査によると、「週1回以上授業でコンピュータ・タブレットなどのICTを利用した」と回答した児童生徒の割合が、小学校6年生で88.0%、中学校2年生で69.3%となり、今年度はICTの活用が進んでいることが分かります。



【「週1回以上を利用した」と回答した児童生徒の割合】

【R2・3の質問は、「これまでの授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。」】

全国の各学校でも授業改善のツールとしてICTが取り入れられ、子どもたちが様々な活動で端末等を利用しています。

子どもたちがこれから生きていく社会では、ICTを活用した意見交換や資料作成、プレゼンテーション等が当たり前に行われることとなります。これから、全国または世界の人たちと関わっていく島根県の子どもたちにも、様々な場面でICTを効果的・効率的に利用していく力が必要となります。

ICTを効果的に活用することで各教科等で目指す資質・能力を育成するとともに、子どもたちのICT活用に関する経験値を高めるという点からも、ICT活用を推進していかなければなりません。

今一度、ICTを活用する意味を確認しながら、今日からの授業づくりを進めていきましょう。



1 なぜICT活用？

(1) 学習指導要領における情報活用能力の位置付け等

平成28年中央教育審議会答申においては、「言語能力」等と同様に「教科等を越えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力」の一つとして「**情報活用能力**」を掲げ、「教育課程全体を見渡して組織的に取り組み、確実に育てていくことができるようにすることが重要である」とし、学習指導要領等に反映していくことが提言されました。

平成29年に公示された小学校学習指導要領では、情報活用能力について以下のように記述しています。

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の変遷を図るものとする。

『小学校学習指導要領』第1章 総則 第2の2 (1) (平成29年文部科学省) より

同様に中学校、高等学校、特別支援学校の学習指導要領にも記述されています。

また、平成28年中央教育審議会答申において、「**情報活用能力**」について次のように整理されています。

○知識及び技能

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、技術に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技術を身に付けていること。

○思考力、判断力、表現力等

様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出す力や問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。

○学びに向かう力、人間性等

情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。

2 学校での ICT 活用例

(1) 県立高校での活用の様子

県立高校では令和3年度末に教員の授業用端末を整備し、令和4年度の入学生から1人1台端末をBYAD方式(Bring Your Assigned Deviceの略。教育委員会が推奨機種を斡旋して個人が私費購入した端末を持ち込み、活用すること。(一部公費による貸出端末))により導入し、ICTを活用した学習を行っています。

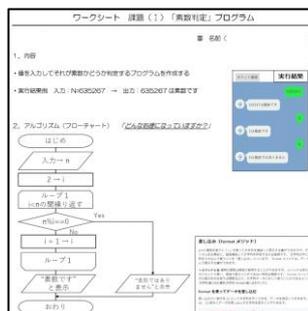
これまでのICTを活用した授業といえば教師が教材等を大型提示装置に提示する一斉学習が主でしたが、1人1台端末の導入により、生徒が各自の端末を使い情報を検索してまとめたりする個別学習や、複数の生徒が共同編集機能を使いながら考えを深め、まとめたものを発表する協働学習など、授業スタイルが変化しつつあります。



新学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めるためには、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が必要であり、そのためのICTの活用が各校で取り組まれています。今後は各教科の見方・考え方を働かせながら学びを深めるなど、ICTを活用して、指導と評価の一体化が実現するように授業改善が行われます。

○情報Ⅰ 単元：プログラミング

「プログラミングを活用して問題解決する力」を身に付けるために、プログラミングの基本構造である「順次」「選択」「反復」や関数などの既習内容をもとにアプリケーションを実装します。



```
実行時プログラム | 送信時プログラム | データベース
1 n = int(input())
2
3 for k in range(2,n):
4     if n % k ==0:
5         print('{}は素数ではありません'.format(n))
6         break
7 else:
8     print('{}は素数です'.format(n))
9
```

【プログラムの改善例】

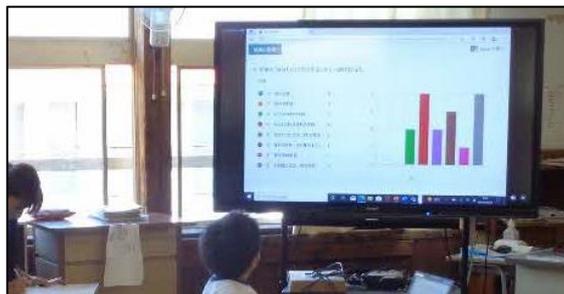
(2) 小中学校等での活用の様子

○Microsoft Forms等のアンケート機能を活用した事例

「デジタル新聞づくり」

【校種】小学校

- ・練習用の記事をもとに、学級の児童全員が作成した見出しを電子黒板に表示し、Formsを活用し、自分が良いと考えた見出しに投票する。
- ・電子黒板に写された投票結果のグラフと、投票した理由について意見交換を行い、見出しづくりのポイントを整理し、共有する。



【投票結果がデジタル黒板に投影される様子】

【活用のポイント】

- ・投票結果がすぐにグラフ化され、電子黒板に表示（可視化）されるICTの利点を活用する。
- ・Formsでの投票結果だけでなく、投票した理由を意見交換することで、見出しづくりのポイントを学級全体で共有し、その学習（見出しの編集）につなげている。

○撮影機能を活用した事例

「野菜の栽培・販売活動」

【校種】小学校

- ・自分たちが栽培した夏野菜を販売をする際に、「発表ノート」(Sky Menu Class)でお店の広告や看板をつくり、PR活動を行う。
- ・接客の練習の際に、自分たちの接客の様子をカメラで撮影し、買ってくれる人が気持ちよくなる接客について考える。

【活用のポイント】

- ・1人1台端末で撮影した静止画や動画を記録とし、いつでも見直すことができる利点を活用する。



【発表ノートでつくられた広告】

○オンライン会議機能を活用した事例

「他の学校等との交流授業」

【校種】小学校

- ・Teamsの「会議」機能を活用し、他校の児童と交流学习（国語）を行う。

【活用のポイント】

- ・距離の壁を越え、他者とつながることができる利点を活用する。
- ・多様な他者のさまざまな意見に触れることができるようにする。

「配信による授業参加」

【校種】中学校

- ・Teamsの「会議」機能を活用し、自宅待機中の生徒に向けて学校の授業をオンラインで配信する。

【活用のポイント】

- ・朝礼前にTeamsの「クラスノートブック」を活用し、1日の時程の確認を行う。
- ・一方的に授業を受けるだけでなく、意見を発信する場面を設定する。

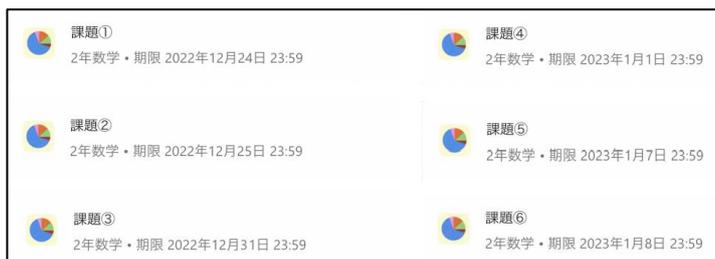
○「家庭学習」での活用事例

【校種】中学校

- ・Teamsの「課題」の機能を活用し、宿題をデジタルで配信する。

【活用のポイント】

- ・家庭学習の習慣を確立するため、宿題に取り組むことができる時間を指定する。
- ・ネットワークを通じて提出された宿題を学習評価につなげる。



【配信された宿題】

(3) 1人1台端末を用いた教育のプロモーションビデオ

島根県では、1人1台端末を用いた教育により、次のような学びの実現を目指しています。

- ①ICTを活用してアナログの時間をつくることによる対話的な学び
- ②データを収集・分析することによる効果的な学び

国のGIGAスクール構想に呼応し、島根県内においても、児童生徒1人1台端末を用いた教育が本格化しています。県内の学校の授業がどのように変容しているのか、ICTを活用した教育の取組を動画にまとめています。

学びが変わる 未来が変わる～1人1台端末～（全校種版）



<https://youtu.be/iiKmAouy-hU>

学びが変わる 未来が変わる～県立高校1人1台端末～（県立高校版、各教科版）



<https://youtube.com/playlist?list=PLVv8S21p-5o1PzEc8CjESEbj5z1IWmJFJ>

3 学校の ICT 活用を推進するには

(1) 学校における ICT 活用推進のキーパーソン

国立教育政策研究所は報告の中で、「ICT の活用が促進されている学校では、ICT 活用を教育目標達成の手段として明確化し、組織的・計画的に活用しようとするマネジメントの実践が、教員の ICT 活用を促進している」としています（『公正で質の高い教育を目指した ICT 活用の促進条件に関する研究：2021 年度政令指定都市調査の第一次分析』2022 年 10 月）。つまり、ICT 推進のカギは学校経営にあり、ICT の活用を組織全体へ広げていく ICT 担当者と、その取組を支え学校経営の方向性を示す管理職がキーパーソンとなります。



文部科学省（2014）「ICT を活用した指導方法～学びのイノベーション事業 実証研究報告書より～」より引用

(2) ICT 活用を横へと広げる ICT 担当者

校内の ICT 担当者の役割としては、校内の ICT の活用状況の把握、困りごとなど相談できる場の設定、スキルアップのための企画・実施や情報提供、中長期の目標やロードマップの作成といったことが考えられます。ICT 活用に苦手意識をもつ教職員は少なくありません。教職員が持っている知見やスキルをシェアしあえる環境が大切です。コミュニケーションをとりながら、教員一人一人の困りごとに耳を傾け、教職員をつないでいくことがポイントになります。ICT の「C」はコミュニケーションの「C」です。島根県の教職員の ICT 活用指導力の課題である ICT での「やりとり」を、Microsoft Teams や Google Classroom などの学習支援ソフトを使って、まず教職員同士からチャレンジしていくとよいでしょう。



(3) ICT 担当者を支える管理職

ICT 担当者がリーダーシップを発揮するには、教職員が一致団結して取り組むための柱となる共通の目標が必要です。そして、目標達成に必要な不可欠なものとして ICT を位置付けることがポイントになります。一方、ICT 端末の数は増え、以前に比べてトラブル対応など ICT 担当者が担う役割も増えています。担当者一人が担うのではなく、ICT 担当者を中心にチームで動けるよう組織することも大切です。また、ICT 活用の目的は「授業改善」です。必ずしも ICT 担当者が ICT 活用に長けている必要はありません。「授業力に長けた教職員」と「ICT に長けた教職員」とでチームを組むことで、教職員の主体性が発揮できるはずです。チームでの試行錯誤や協働、実践の共有を奨励し、トライ&エラーの中で、教職員のチャレンジを促し、主体性を引き出すことも大切なポイントになります。

